

令和4年度 2学期始業式 校長式辞

昨日、スクールサポートスタッフの佐藤さんが「式辞で校長先生の人生の話をすればどうですか?」と言ってくれました。

私は四国の徳島で生まれ4歳で青森に引っ越してきました。列車の中から雪を初めて見た時の驚きを今でも覚えています。

小学校では遊んでいても勉強はできましたが、中学校に入って遊んでいたら、全く勉強ができなくなりました。そのため希望の高校には入れませんでした。高校で尊敬する地理の先生に出会い、大学で地理の勉強をすることを決心しました。当時好きだった人と同じ大学に通いたいという理由で大学を決めました。入学してすぐに告白して振られました。奨学金をもらいながら大学に通いました。大学では勉強よりも旅行とアルバイトに必死でした。地理の教員になる予定が、採用されてから6年間は地理ではなく英語を教えました。努力とか想いとかに関係なく理不尽を飲み込まなければいけない時もあることをその時初めて理解した気がします。最初に赴任した学校はすごく荒れていて、誰も私の話を聞いてはくれませんでした。男の先生のように怒鳴ったりせずに、生徒にいうことを聞いてもらうためには「良い授業をして尊敬されるしかない」と頑張りました。いくつかの学校に赴任しました。尊敬する先輩や仲間に出会いました。沢山の素敵な生徒にも。大変だけど「教師」という仕事は本当に素敵な仕事です。それでも5年前、自分が校長になるなんて想像もしていませんでした。5年後60歳で校長ではなくなります。そうなった後の人生もまた想像つきません。だから人生は面白いのかもしれないかもしれません。また世界を旅するか、NPOなどで途上国の支援をできたらいいなあと漠然と考えています。これが私です。

学校という均一の集団にいてどうしても人を横並びで見えてしまいます。でも当たり前ですが、私には私の人生があるように、それぞれの人にはそれぞれの人生があり、歴史があります。人は皆何かを背負いながら必死で生きています。教職員も含めると約500人のそれぞれの人生があり、それがたまたま今年、この場所で一緒になっただけです。

皆さんに伝えたいことは、自分の人生をしっかり生きて欲しいということ。そして、この場所だけが全てではないということです。この場所でどうしても気が合わない人や、自分を攻撃してくる人が居たとしても、そんな人はあなたの人生には一切関係ない人です。高校を卒業したらきっと一生会わないからです。もしこの場所にいるのがどうしても辛い人がいたら、自分の安心できる居場所を見つけられればいいだけの話です。必ずあります。人生には乗り越えることと同じくらい、耐えることや逃げる必要があります。

学校は「仲のいい友達と楽しく過ごす場」ではなく「学ぶ場」です。どうか精一杯学んでください。それぞれが幸せな人生を生きるための学問であり、学校です。

そんな良質の学びを提供できるよう、2学期も教職員全員で頑張ってください。